

6項 第18回アルゴリズムと計算に関する国際会議(1 節 通研国際シンポジウム, 第5章 国際会議・シンポ ジウム等)

雑誌名	東北大学電気通信研究所研究活動報告
号	14
ページ	286
発行年	2007
URL	http://hdl.handle.net/10097/40834

第 18 回アルゴリズムと計算に関する国際会議 The 18th International Symposium on Algorithms and Computation (ISAAC '07)

開催日：平成 19 年 12 月 17 日（月）～19 日（水）（3 日間）

開催場所：仙台エクセルホテル東急

国際会議 ISAAC '07 は 2007 年 12 月 17 日から 19 日までの 3 日間、仙台市のエクセルホテル東急で開催され、190 人の参加登録者（うち 58 人が学生登録者）による活発な研究交流が行われた。

本会議は高い評価を得ている国際会議シリーズであり、今回の 77 件の一般講演（40 カ国 220 件の投稿から査読により採録）と 2 件の特別講演は、いずれもアルゴリズムと計算理論の最先端に関する優れたものであった。

招待講演では、Pankaj Aggarwal 氏（Duke 大学）が、計算幾何学を用いた地球規模での地理データベース構築、更に地球環境問題への取り組みのための知識抽出に関する研究を紹介し、計算幾何学を中心とした計算理論の社会へのインパクトを示した。また、Robin Thomas 氏（Georgia 工科大学）は、4 色問題を拡張した彩色問題の最前線を非常に明快に紹介した。この 2 件の招待講演はスケールの上でも、講演の明瞭さにおいても非常に秀でたものであった。

一般講演では、ビットプローブモデルを用いたデータ符号化理論に関する Rhaman 氏と Ian Munro 氏の論文が最優秀論文賞を受け、また、行列式とパフ式の組み合わせ的高速計算に関する Urbanska 氏、ネットワークでの情報伝達とランダムウォークの収束時間との関係を示した Sauerwald 氏の論文が優秀学生論文賞を受けた。論文集は Springer 社の Lecture Notes in Computer Science の Volume 4835 として出版されている。

日本の研究者も多数参加し、主に若手の研究者による登壇発表で、優れた成果報告が行われた。また、会議に参加した若手研究者たちは、会議場のみではならず、夜を徹して国際的な友好を深めていたようであり、海外の研究者たちは、日本の若手研究者の活発かつ積極的な交流態度に非常に感銘を受けていた。

第 18 回 ISAAC を仙台で開催し、論文集を Springer-Verlag 社の Lecture Notes in Computer Science の 1 冊として発行したことにより、アルゴリズムに関する研究成果を公表するとともに、研究者の交流をはかった。ISAAC '07 の開催により、ネットワーク、グラフ、幾何データなどに関するアルゴリズムばかりではなく、Web での情報検索、移動通信の周波数帯域割当などに応用されるアルゴリズムの発展が期待できる。東北大学電気通信研究所が共催することにより、研究所の存在を世界にアピールすることができた。